

医師の皆様へ

- 平成25年4月から「障害者総合支援法」が施行され、障害の範囲に政令で定める難病等が追加されます。
- 難病患者さんが障害福祉サービス等を利用する際に、区市町村での手続きに必要な診断書、医師意見書につきまして、ご留意いただきたい事項をまとめましたので、ご確認の上作成していただけますよう、よろしくお願いいたします。

難病患者等が障害福祉サービス等を利用する際に必要な 診断書、医師意見書作成の留意事項について

1 申請時の診断書作成の留意点

(1) 診断書の役割

- ・難病患者さんからサービスの支給申請があった場合、区市町村の窓口では、患者さんが提出する医師の診断書（あるいは、病名のわかる医療費助成の医療券等）によって、政令に定める疾患に該当するかどうかを確認することとされています。
- ・診断書の様式は特段に定められていませんが、区市町村の障害福祉担当が、申請者の疾患が対象であるかどうかを容易に確認できることが重要です。

※ 診断書作成の費用は、自費負担となります。

(2) 診断書記載上の留意点

☆診断病名は政令で定める疾患名(別紙)を記載してください。

- ・サービスの対象となる難病等の範囲として、政令で定められたものは、別紙の130疾病です。
- ・難病等の種類によっては、さらに疾病が分類される場合がありますが、そのような場合には、() 書きを活用して補足するなどにより、政令で定める疾病に該当しているかどうか、区市町村窓口の職員にも分かるように記載をお願いします。

※対象疾病について

- ・別紙の対象疾患一覧は、50音順に記載され番号が付番されています。
(疾患群別の病名一覧は「手引き別冊」P10～17を参照ください。)
- ・対象となる難病等の範囲については、当面の措置として、従来の要綱に基づく事業（「難病患者等居宅生活支援事業」）と同範囲とされたものです。対象疾病については、引き続き、医療費助成の対象等とあわせて国の厚生科学審議会で検討されていますので、今後の動向にもご留意ください。（「手引き別冊」P4）

2 障害程度区分認定時の意見書作成の留意点

(1) 医師意見書の役割

☆外見からは分かりにくい難病等の「症状の変化や進行」等に関して、医学的な観点からの意見を区分認定に反映させます。

- ・ 居宅介護等の介護給付を申請する場合には、障害程度区分の認定が必要となります。
- ・ 障害程度区分認定のための調査項目、基準、様式等は、今般、難病を追加するにあたって、変更はありません。しかし、症状が固定している身体障害の場合等と異なり、難病患者は症状が変化する等の特徴があり、外見からは障害の程度が分かりにくいものとなっています。このため、認定調査時の聞き取りや主治医の意見をもとに、区市町村審査会において「より重度の状態」を想定した審査判定を行うことが重要となります。
- ・ 「医師意見書」は、一般的な診断書ではなく、主治医の医学的な観点からの意見を障害程度区分の認定に反映させるための書類となります。区市町村審査会の委員は福祉・介護関係者が多いため、**専門用語は避けて、分かりやすい内容で記載**していただけるようお願いします。

※ 意見書作成の費用は、区市町村が定額を負担します。

(2) 意見書記載上の留意点

(※ 詳細は手引き別冊P33～35、記載例はP45～49を参照)

「1－(1) 診断名及び発症年月日」欄

☆障害の原因となる疾病については、政令で定める疾患名(別紙)を記載してください。

- ・ 細分類された疾病名である場合には、() 書きで補足してください。
- ・ 合併症やその他の疾病などがある場合にも、疾病名等を記入してください。

「1－(2) 症状としての安定性」欄

☆症状の変化や進行は、「より重度の状態」を把握し、支援の必要性や有効期限を判断する際の重要な情報となります。

- ・ 難病等の症状に変化や進行がある場合は、「不安定」にチェックして、具体的な状況を記載してください。本人や家族からの聞き取りでは分からない場合があるため、必ず記載をお願いします。

【変化の例】一日の中で変動する、毎日変動する、急に重くなる、数ヶ月(季節)で変動する、天候で変わる 等

- ・ 症状が進行する場合は、「どのくらいの期間」で「どのような状態」になることが想定されるか、具体的に記載してください。(「1－(3) 症状の経過及び治療内容」欄への記載でも結構です。)

「１－（３）傷病の経過及び投薬内容を含む治療内容」欄

☆難病等の「状態」には、治療や投薬により生ずる「副作用」、合併症等による生活上の支障も含まれます。

- ・難病等の症状の経過については、時期も具体的に記載してください。
- ・投薬を行っている場合は、薬剤の名称や投薬量、効果、副作用などについて具体的に記載してください。合併症やその他の疾病などについても、記載してください。

「５ その他特記すべき事項」欄

☆症状の悪化を防ぐために障害福祉サービス等の利用が必要な理由等があれば、この欄に記入してください。

- ・他の欄に記載した症状や意見等以外で、障害程度区分の認定及び障害福祉サービス等の利用に関して参考となる意見などを記載してください。
- ・精神・神経症状を有する難病患者の場合には、「１．精神症状・能力障害二軸評価」及び「２．生活障害評価」で評価した結果を、この欄の下方にある「精神障害の機能評価」のまとめ欄に転記してください。

【参考】

市町村審査会委員が審査判定で必要と思う医師意見書の内容

- ※「平成２４年度障害程度区分調査・検証事業」において、市町村審査会委員へのアンケートを実施した結果です。
- ※アンケート結果の内容は、基本的には「わかりやすい説明がほしい」「具体的な情報を記載してほしい」というものでした。

【具体的な内容】

- 難病等の症状が理解しやすい説明を記載してほしい。（専門用語は避けてほしい。）
- 難病患者等の状態がイメージできるような具体的な内容を記載してほしい。
- 現在の状態だけでなく、過去の状態や今後の見込みについても記載してほしい。
- 今後の症状の変化（１年ごとの変化等）についても記載してほしい。
- 薬の効果や副作用についても具体的に記載してほしい。
- 寛解（緩解）期であっても、詳しい症状の説明を記載してほしい。
- 精神面（不安や抑うつ等）から日常生活に与える影響を詳細に記載してほしい。
- 障害福祉サービスを利用することで、難病患者等にどのようなメリットがあるのか意見を記載してほしい。

対象疾患一覧

1	lgA腎症	34	原発性側索硬化症	67	成人スチル病	99	膿疱性乾癬
2	亜急性硬化性全脳炎	35	原発性胆汁性肝硬変	68	脊髄空洞症	100	嚢胞性線維症
3	アジソン病	36	原発性免疫不全症候群	69	脊髄小脳変性症	101	パーキンソン病
4	アミロイド症	37	硬化性萎縮性苔癬	70	脊髄性筋萎縮症	102	バーシャー病
5	アレルギー性肉芽腫性血管炎	38	好酸球性筋膜炎	71	全身性エリテマトーデス	103	肺動脈性肺高血圧症
6	ウェグナー肉芽腫症	39	後縦靱帯骨化症	72	先端巨大症	104	肺胞低換気症候群
7	HTLV-1 関連脊髄症	40	拘束型心筋症	73	先天性QT延長症候群	105	バッド・キアリ症候群
8	ADH不適合分泌症候群	41	広範脊柱管狭窄症	74	先天性魚鱗癬様紅皮症	106	ハンチントン病
9	黄色靱帯骨化症	42	高プロラクチン血症	75	先天性副腎皮質酵素欠損症	107	汎発性特発性骨増殖症
10	潰瘍性大腸炎	43	抗リン脂質抗体症候群	76	側頭動脈炎	108	肥大型心筋症
11	下垂体前葉機能低下症	44	骨髄異形成症候群	77	大動脈炎症候群	109	ビタミンD依存症二型
12	加齢性黄斑変性症	45	骨髄線維症	78	大脳皮質基底核変性症	110	皮膚筋炎
13	肝外門脈閉塞症	46	ゴナドトロピン分泌過剰症	79	多系統萎縮症	111	びまん性汎細気管支炎
14	関節リウマチ	47	混合性結合組織病	80	多巣性運動ニューロパチー	112	肥満低換気症候群
15	肝内結石症	48	再生不良性貧血	81	多発筋炎	113	表皮水疱症
16	偽性低アルドステロン症	49	サルコイドーシス	82	多発性硬化症	114	フィッシャー症候群
17	偽性副甲状腺機能低下症	50	シェーグレン症候群	83	多発性嚢胞腎	115	プリオン病
18	球脊髄性筋萎縮症	51	色素性乾皮症	84	遅発性内リンパ水腫	116	ベーチェット病
19	急速進行性糸球体腎炎	52	自己免疫性肝炎	85	中枢性尿崩症	117	ペルオキシソーム病
20	強皮症	53	自己免疫性溶血性貧血	86	中毒性表皮壊死症	118	発作性夜間ヘモグロビン尿症
21	ギラン・バレー症候群	54	視神経症	87	TSH産生下垂体腺腫	119	慢性炎症性脱髄性多発神経炎
22	筋萎縮性側索硬化症	55	若年性肺炎腫	88	TSH受容体異常症	120	慢性血栓塞栓性肺高血圧症
23	クッシング病	56	重症急性肺炎	89	天疱瘡	121	慢性膵炎
24	グルココルチコイド抵抗症	57	重症筋無力症	90	特発性拡張型心筋症	122	ミトコンドリア病
25	クロウ・深瀬症候群	58	神経性過食症	91	特発性間質性肺炎	123	メニエール病
26	クローン病	59	神経性食欲不振症	92	特発性血小板減少性紫斑病	124	網膜色素変性症
27	劇症肝炎	60	神経線維腫症	93	特発性血栓症	125	もやもや病
28	結節性硬化症	61	進行性核上性麻痺	94	特発性大腿骨頭壊死	126	有棘赤血球舞踏病
29	結節性動脈周囲炎	62	進行性骨化性線維形成異常症	95	特発性門脈圧亢進症	127	ランゲルハンス細胞組織球症
30	血栓性血小板減少性紫斑病	63	進行性多巣性白質脳症	96	特発性両側性感音難聴	128	リソソーム病
31	原発性アルドステロン症	64	スティーヴンス・ジョンソン症候群	97	突発性難聴	129	リンパ管筋腫症
32	原発性硬化性胆管炎	65	スモン	98	難治性ネフローゼ症候群	130	レフェトフ症候群
33	原発性高脂血症	66	正常圧水頭症				